

コロナを乗り越え迎えて新しい年

仕事始めの1月4日、達生堂グループの顔合わせと新年のあいさつが行われました。

年末年始にかけ、発熱外来や救急搬送が相次ぐ年越しになりましたが、多くの職員が一堂に会して、新年の抱負を語り合いました。

年頭あいさつで城西病院の白石裕比湖理事長は「コロナ禍をはじめとして医療は厳しい局面を迎えているが、力を合わせて乗り切ってほしい」、藤田善幸院長は干支の卯年からひも解いて「意外性を含んだ年で、いろんな現場の声で病院を改革していきたい」、通所リハビリセンター「茶釜の湯」の永島覚一センター長は「茶釜の利用差が増え、ますますグループが発展するように」とあいさつしました。

恒例の今年の標語は、「私達が、幸せで長生きできる人生を送れるようにお手伝いします」という達生堂のモットーと、目標を「達成する」をかけて、「目標を達生（達成）するには 全力で取り組む以外に方法はない 失敗すればやり直せばいい あきらめないことだ」を発表しました。

引き続きで参加した職員全員で「今年も頑張ろう」と掛け声をかけ、締めくくりました。

2023年1月4日

目標を
達生（達成）するには
全力で取り組む以外に
方法はない
失敗すれば
やり直せばいい
あきらめないことだ

